

『人』と『認知症』という見方・捉え方

人を見るスキルを高めれば
支援は高まり充実してくる

2017/2/16

今日のメニュー

1. 前提を変える
2. 繋がるということ
3. 認知症とは？
4. 認知症ケアとは？
5. 認知症と人への対応のしかた
6. まとめ

2017/2/16

『前提を考える』

2017/2/16

なぜ、さわり・ふれるのか ～仮説～

- 失われていく世界とのつながり
- 失われていく自己
- 自分を探す旅
- 誰かと何かと繋がりたい 繋がっていたい
- 繋がっている事での安心するのではないか

2017/2/16

人は常に何かと繋がっている

そのことで様々な関係と
自分とのバランスを保っている
(人 物 地域 感じる全てetc)

2017/2/16

どう繋がっていたか？
どう繋がっているか？
どう繋がってほしいか？

人やものとの繋がりで、もっとも大切なこと

2017/2/16

『前提の歴史』

- 何よりも大切に何よりも優先して守らなければならないことが間違っていた
- それは
- 彼らは弱者で、守られるべき人で、介護される対象者であり、その介護や看護の名の管理下におかれているという前提があった⇒つまり、主体が私たちに在る
- しかし
- 毎日の彼らの暮らしの中に、主体者としての存在という前提があった⇒つまり、主体は彼らに在る

2017/2/16

過去に行われてきた介護？

- ◆手間が省けるからと、男性はブルー、女性はピンクの上下スウェットを平気で着させる専門職
- ◆誰が見ていようが場所さえも構うことなく、オムツ交換をする専門職
- ◆おむつを外すからと背面ジッパーのつなぎ服を着せる専門職
- ◆便が出ていることがわかっているにもかかわらず、おむつを交換しない専門職
- ◆ベットに高い柵をつけてその中に放り込む専門職
- ◆自分たちに不都合があるから薬で動けなくしてしまう専門職
- ◆外に出ていけないように、建物に閉じ込める専門職
- ◆井の中にご飯もおかずも薬も放り込んで食べさせる専門職
- ◆立ったまま、何も言わずに食べ物を口の中に放り込む専門職
- ◆できることであっても危ないからとやらせない専門職
- ◆洗髪しやすいからと男女かまわず短髪にする専門職

2017/2/16

『私の不思議』

- ・軽度の定義～自分たちの思うようになる認知症の人、若しくはおとなしい何も問題のない認知症の人
- ・重度の定義～自分たちの思うようにならない認知症の人、若しくは問題のある認知症の人
- ・問題の有無の定義～自分たちが安心（思い通りになる人、自分たちの言うことを聞いてくれる人、静かに一日黙って座ってくれている人、自分たちがやってもらいたい役割を気持よくやってくれる人、そもそも帰るなどと言わない人等々）してみれるかみれないかの違い

2017/2/16

人の姿と認知症

- ・姿の捉え方からスタート
どんな姿かと思っているかがその後の関わりや支援（介護・ケア）に影響する

**視点（姿の捉え方）は認識を創造し
認識は経験を創造する**

2017/2/16

『これまで』と『これから』の考え方の変化

- さんに～してあげる（提供）
- さんと～いっしょに（共生）
- さんが～したいこと（主体）

2017/2/16

『認知症とは？』

2017/2/16

認知症というのは

- 脳血管疾患、アルツハイマー病その他の要因に基づく
- 脳の器質的な変化により
- 日常生活に支障が生じる程度にまで
- 記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう

2017/2/16

その1

脳血管疾患、アルツハイマー 病その他の要因に基づく

原因となる疾患

約70～100

2017/2/16

その2

脳の器質的な変化により 脳という器が壊れてゆく

2017/2/16

その3

日常生活に支障が生じる 程度にまで

これまでできていたことが
できたりできなかったりと
困難と思える状態へと向かう

2017/2/16

その4

記憶機能及びその他の 認知機能が低下した状態

知的な能力が変化してゆく

2017/2/16

認知機能とは

記憶の機能

- ・ 思い出す、覚える機能

見当識の機能

- ・ 時間や場所の見当をつける機能
- ・ 物の名前を見当をつける機能

実行機能（行為／認識／言語など）

- ・ 生活するための行為
（着替え・買い物・掃除・料理・トイレの始末等）
- ・ 言葉で伝えること
- ・ 字が書くこと
- ・ 判断をすること
- ・ 計算をすること
- ・ 同時に複数の事を行うこと 等々

2017/2/16

では、皆さんに質問です
彼らが困っていることは何でしたっけ？

2017/2/16

困っているポイントはここ！！

日常生活に支障が生じる

これまでできていたことが
できたりできなったりと
困難と思える状態へと向かう

2017/2/16

もっと具体的に
わかりやすく
皆さんの
身近な出来事を通して
考えてみます

2017/2/16

『点』から『線』へ
そして『面』への話し

2017/2/16

お茶を飲むまで

2017/2/16

～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係～

お茶が飲みたいと思う
 正座の状態からテーブルに両手をつく
 左足は立てひざを保つ
 右の足の裏を床につける
 テーブルに置いた両手に体重をかける（この
 時点
 で、よっこいしょ！と出る）
 左の足の裏を床につける
 前傾姿勢を両手で支える
 腰を伸ばしながら立ち上がる
 台所へ向きを変える

台所へ歩く
 お湯を沸かそうと思う
 やかんを手取る
 やかんのふたをとる
 やかんの水を入れる口を水道の蛇口に合わせる
 左手にやかんを持ち
 右手で蛇口をひねる
 水の量を確認しながら適量を入れる
 やかんのふたを閉める

2017/2/16

～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係～

やかんをコンロに置く
 コンロのダイヤルを回す
 火力を調節する
 やかんの様子を気にかける
 お茶っ葉のある場所の見当をつける
 左手で食器棚の扉を開ける
 お茶っ葉の入った筒を探す
 右手で食器棚からお茶っ葉が入った筒を取り出し置く
 食器棚から急須を取り出し置く
 食器棚から湯飲み茶碗を取り出し置く
 食器棚の扉を閉める

2017/2/16

お茶っ葉の入った筒のふたを開ける
 筒のふたを左手に持つ
 右手で筒を持ち
 筒のふたに適量のお茶っ葉を入れる
 急須のふたをとり
 急須にお茶っ葉を入れる
 お湯が沸いたか気にかける
 お湯の沸き具合を音でも確認する
 お湯が沸いたかどうか湯気の出具合で確認する
 お湯が沸いたことを認識する
 コンロのダイヤルを回し火と止める

～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係～

やかんを持ち上げ
 沸いたお湯を適量急須に注ぎこむ
 急須のふたを閉める
 湯飲み茶碗にお湯を適量入れる（湯のみ茶碗を温めるため）
 やかんとコンロの上に戻す
 湯飲み茶碗のお湯を捨てる
 湯飲み茶碗に急須に入っているお茶を注ぎこむ
 湯飲み茶碗を持つ

2017/2/16

居間へ歩く（慎重に歩く）
 居間のテーブルにお茶の入った湯のみ茶碗を置く
 両手をテーブルにつき座る（よっこらしょ！と口から出る）
 楽な体勢になる
 右手に湯飲み茶碗を持つ
 左手で底を支える持つ
 両手で丁寧に持ちゆっくりと火傷しないよう口元に近づける
 熱さを確認しながら口に注ぎ込み飲む

『認知症ケアとは？』

2017/2/16

『私たちの中で起こっている認知機能の理解』
～思考や認識や行為や感情の関係の繋がりによって達成される～

- 私達は、日常において、このように細かい思考や認識や行為や感情の関係の連続であることまで考えたり、意識してお茶を淹れません。
- ですから、いざ分析してみると多くの人は大雑把に分類することになります。
- しかし、ここで思い出したことは、「お茶を飲むまで」と言う行為は、このように様々な思考や認識や行為や感情の関係の集まりということです。
- その一つひとつが繋がりあって一連の生活動作として、若しくは生命活動として自然にやっけています。

2017/2/16

『私たちの中で起こっている認知機能の理解』
 ～思考や認識や行為や感情の関係の繋がりによって達成される～

- 一つの思考や認識や行為や感情を「点」と考えるのであれば、その「点」の一つひとつが出来るのと同時に、繋がってはじめて「線」となり、一つの目的を達成することで、「面」となり、生活に広がり潤いをもたらせています。
- しかし、この「点」のどこかが、自然の変化である老化或いは、ある種の疾病や障害又は不自由であったり、更に「点」を阻害するような他の力が加わったとしたら果たしてどうなるでしょうか。
- 間違いなくお茶を飲むことはできないでしょう。お茶を飲むどころか、途中で戸惑い、混乱し、不安になるでしょう。自分を責める人もあれば、他のせいにする人もいますでしょう。

2017/2/16

『私たちの中で起こっている認知機能の理解』
 知る⇒経験する⇒感じる⇒気づく の繰り返し

- 彼らは、認知機能の変化によって、生活に不自由を感じます。
- 記憶、見当、実行機能の不自由がその中心にあるとすれば、「お茶を飲むまで」の一連の思考や認識や行為や感情の関係に不適應な状態をきたす事は言うまでもありません。
- ましてや、今までできていたことが出来なくなってゆく様を経験するのは、耐え難い経験とを感じる人もいますでしょう。

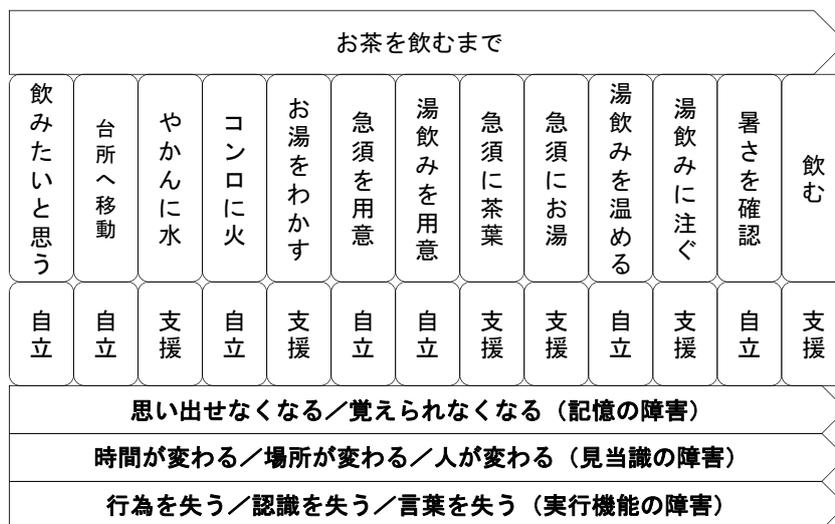
2017/2/16

『私たちの中で起こっている認知機能の理解』 知る⇒経験する⇒感じる⇒気づく の繰り返し

- 様々な不自由に照らし合わせていくと、それぞれに違う支援になります。彼らの不自由を知るということは、生活をベースとした、この一連の思考や認識や行為や感情の関係を分析できる力とそこから彼らの不自由に対する支援を届ける力を持つことです。
- 専門性を持つということは、「ひとの生活の営みの中で起こる変化」を知り、経験し、感じ、気づくことにより、健全な生命活動の支援につなげてゆくことです。
- 確かに「認知症の理解」も大切ですが、その前に「ひとの営みの理解」が先だろうと思います。

2017/2/16

生活の支援のポイント 『生活の点の見極めから線へ繋げる（生活の再構築）』 認知症の状態にある人の生活行為の困りごとと支援の仕組み



2017/2/16

認知症というのは

認知機能の障害が複雑に絡み合うことによって
生活がうまい具合にいかなくなってゆくことをいうのです

2017/2/16

その人の持つ 認知症をケアするということは

ですから生活をベースに
どの機能等が複雑に絡み合っ
てうかかないのかを見極めながら
支援ゆことであり
大事なことなんです

2017/2/16

『認知症と人への対応のしかた』

2017/2/16

認知症と人の5つの繋がり支援フロー(Flow)

- ①心地よく良好な関係づくり（日常的に・な）
- ②支援の前の準備・備え・仕掛けなどの環境を整える
- ③仕掛けへの誘い（いざない）・そそり・導き
- ④心地好い展開（ライフヒストリーや嗜好などを活用）
- ⑤心地好い締めと結びと再会の約束（良好な印象づけ）

2017/2/16

不適切な（行うべきではない）関わり方

- 不適切な態度
- 不適切な言葉づかい
- もの忘れに対する不適応な対応
- 早口や理解できない言葉を使うこと
- 無理強いや強制すること

2017/2/16

控えた方がいい不適切なかかわり（北海道編）

- なんでできないのさ？
- 忘れちゃったのかい？
- 前はできてたのにね？
- ダメだべさ！
- なにしてんのさ！
- そんなこともできないのかい？
- ちゃんとしてや！
- 早くして！
- あらららららら～！

2017/2/16

認知機能の変化への支援

- 『手続き記憶に働きかける』
- 『見当識への働きかけ』
- 『実行機能への働きかけ』

2017/2/16

グループホームの場合の 支援について

『認知機能の繋がりと継続』

2017/2/16

デイサービスの場合の 支援について

『在宅生活の繋がりと継続』

2017/2/16

読み解く為の3つの基本中の基本

- 言語
- 準言語
- 非言語

2017/2/16

突然ですが ロールプレイ

2017/2/16

読解力への挑戦

シグナルを読み解く力
(コミュのケーション能力)

2017/2/16

『まとめ』

2017/2/16

繋がるということ

2017/2/16

すべては
繋がっているということ
ですから
その繋がりを大切にすることなんです

2017/2/16

『女子会』

2017/2/16

『自分のやりたいことが思いどおりできること』（わがのまま）

『地域・社会・生活の繋がりを意識できること』（おせっかい）

『人間としての誇りと勤勉さが感じられること』（誇りと尊厳）

「生きるそなえ」として大切なこと

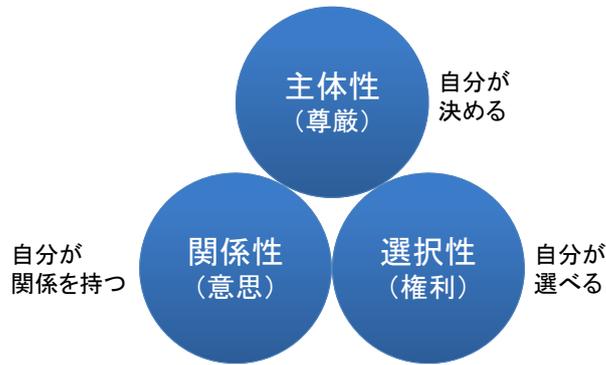
2017/2/16

自分たちの地域（くに）
は自分たちで創り育む

どんな障害があっても
笑い飛ばせる関係があるといい

2017/2/16

認知症の状態にある『人』が よりよく『生きる』ため擁護される3つの原則



食 ・ 移動 ・ 排泄 ・ 住 ・ 死

2017/2/16



2017/2/16

有限会社 グッドライフ

僕たちの仕事は
彼らの声なき声に耳を傾けること

2017/2/16

『心が先、現実の後』
僕の前提

2017/2/16

皆さんお疲れ様でした。
ありがとうございました。

2017/2/16